スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山口県 防府市

自 治 体 名 ： 山口県防府市
担 当 課 名 ： 教育委員会学校教育課
電 話 番 号 ： 0835-25-2241

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	189.37 ㎢
人口	113,791 人
公立中学校数	11 校
公立中学校生徒数	2,867 人
部活動数	84 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

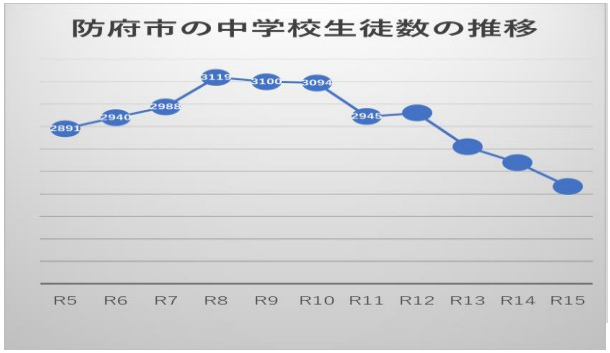
少子化の進展に伴い、学校単位では、生徒の希望する部活動がない、または、思うように活動できないといった状況が予想される。令和６年度の各校部活動の状況を見ても小規模校では選択肢がほとんどないのが現状である。

当市では、今後、 改革推進期間である3年間で、学校部活動では支えきれなくなっている、スポーツ・文化芸術活動を、学校だけではなく、行政、家庭、地域が連携して、地域全体で子どもたちの多様な体験機会を確保するために、地域移行を進める。

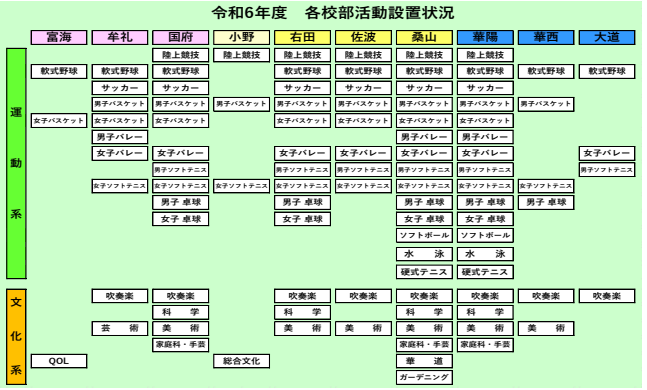
その中で、指導者不足が深刻な問題である。学校教員に代わる指導者の確保が難しく、特に専門的な技術指導が求められる種目では人材不足が顕著である。また、地域ごとの人材差も課題となっている。

次に、保護者の費用負担の増加である。移行に伴い活動費や施設利用料が保護者負担となり、一部の家庭では経済的な理由で参加を断念する事態も想定される。

最後に関係者の意識改革である。学校、地域、保護者がそれぞれの役割を見直し、新たな運営体制を受け入れるためには、相互理解と協力が不可欠となり、積極的な啓発活動を進めていかなければならない。



防府市教育委員会調査（R6～R11 ）
防府市年齢別人口統計（R12～R15）より推計



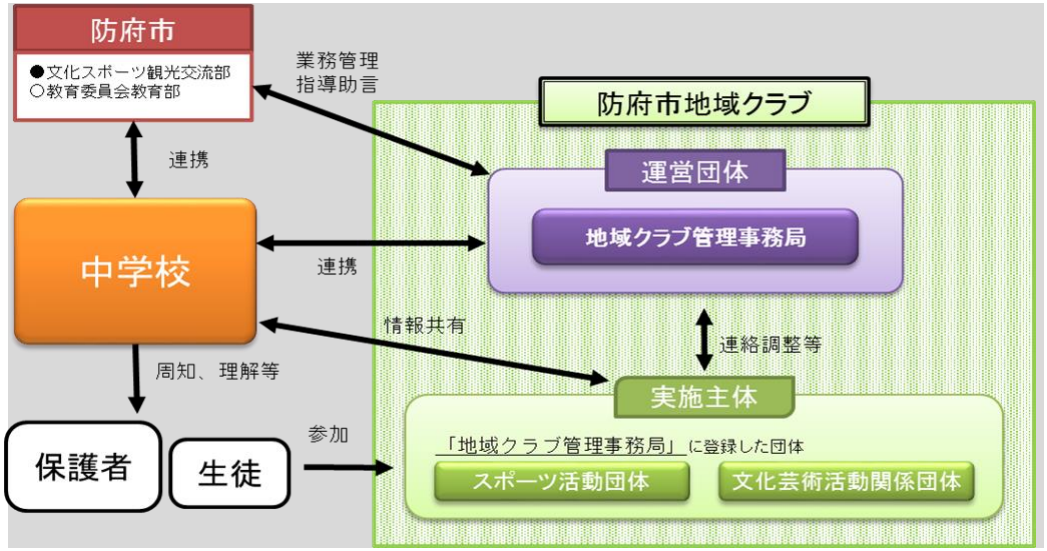
出典：防府市中体連調査（令和６年度 ）

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会（学校教育課、教育総務課）

・学校や各競技団体、文化芸術団体との連絡・調整、活動場所の調整
・人材バンクの設立・運営
・部活動改革推進会議の運営や県との連絡調整

◉首長部局

・スポーツ振興課・・・指導者の確保、活動場所の環境整備
・文化振興課・・・指導者の確保、活動場所の環境整備

年間の事業スケジュール

令和６年４月	柔道・剣道地域クラブ活動の実施（モデル）
令和６年５月	アンケート調査（児童・生徒・保護者・教職員）
令和６年６月	第1回部活動改革推進協議会の開催
令年６年８月	軟式野球地域クラブ活動の実施（モデル）
令和６年１０月	第2回部活動改革推進協議会の開催
令和６年１１月	吹奏楽地域クラブ活動の実施（モデル）
令和７年１月	学校・保護者・児童への説明会の開催
令和７年１月	柔道・剣道・軟式野球の地域クラブの各団体へアンケートの実施
令和７年２月	第3回部活動改革推進協議会の開催

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	１１ 校	実施した地域クラブ総数	７ クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		３ クラブ（８ 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		４ クラブ
全体の指導者数	３２人	全体の運営スタッフ数	３８ 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
防府柔道クラブ	柔道	柔道	週 5 回	16:00 ～18:00	1年 8人 2年 9人 3年 0人	R6.4.1 ～ R7.3.31	桑山中学校	9 人	1 人（内、兼務 0 人）	月会費 3,000 円	地域クラブ
松崎少年剣友会	剣道	剣道	週 4 回	19:00 ～21:00	1年 3人 2年 3人 3年 7人	R6.4.1 ～ R7.3.31	松崎小学校	6 人	1 人（内、兼務 0 人）	月会費 3,000 円	地域クラブ
協和少年剣友会	剣道	剣道	週 4 回	18:00 ～20:00	1年 10人 2年 5人 3年 3人	R6.4.1 ～ R7.3.31	協和発酵有隣館	4 人	2 人（内、兼務 0 人）	月会費 3,000 円	地域クラブ
右田少年剣友会	剣道	剣道	週 4 回	18:30 ～20:30	1年 0人 2年 3人 3年 2人	R6.4.1 ～ R7.3.31	右田中学校	3 人	1 人（内、兼務 0 人）	月会費 2,000 円	地域クラブ
防府クラブ	軟式野球	軟式野球	週 5 回	16:30 ～18:30	1年 7人 2年 11人 3年 0人	R6.8.1 ～ R7.3.31	佐波中学校	3 人	0 人（内、兼務 0 人）	月会費 5,000 円	地域クラブ
防府ジャイアンツ	軟式野球	軟式野球	週 5 回	17:00 ～19:00	1年 12人 2年 14人 3年 0人	R6.8.1 ～ R7.3.31	華陽中学校	3 人	1 人（内、兼務 0 人）	月会費 5,000 円	地域クラブ
国府クラブ	軟式野球	軟式野球	週 4 回	16:30 ～18:30	1年 7人 2年 16人 3年 0人	R6.8.1 ～ R7.3.31	国府中学校	4 人	0 人（内、兼務 0 人）	月会費 5,000 円	地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●剣道の１クラブは体験会のチラシを配付し、令和６年３月末から数回にわたり体験会を開催。その他の剣友会と柔道クラブは、随時見学を受付け。●軟式野球は市からクラブ化に向けて保護者説明会を実施した後、それぞれの３クラブが独自にチラシを作成し、春季休業中にクラブ説明会と体験会を開催。夏季にも、再度体験会を実施。

2.実証内容と成果

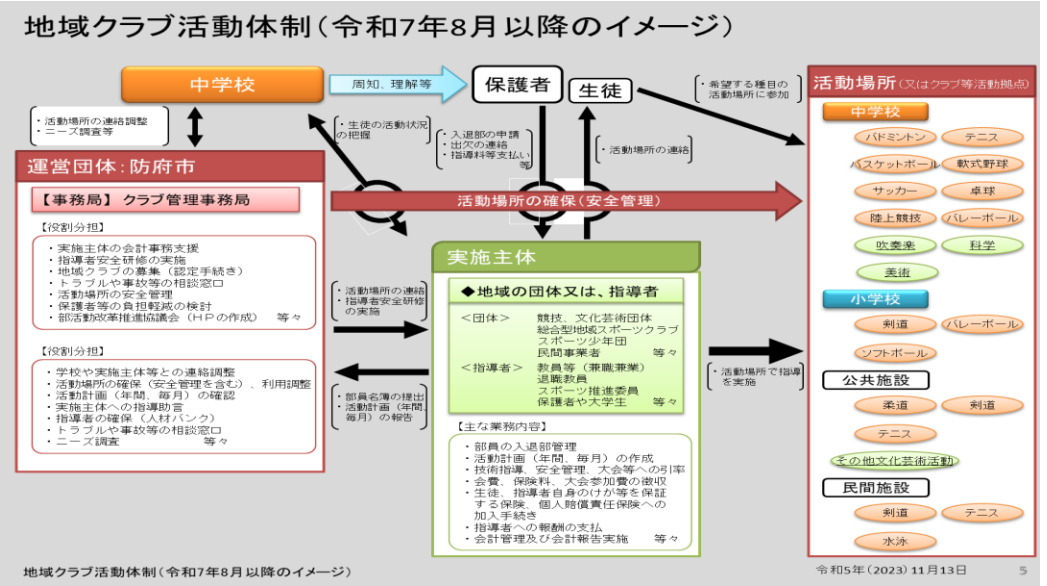
スポーツ庁

主な取組例

●防府市地域クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	柔道、剣道、軟式野球
運営団体名	各クラブ団体
期間と日数	柔・剣道：４月１日 ～３月３１日 月１６～２０回程度 野　球　：８月１日 ～ ３月３１日 月２０回程度
指導者の主な属性	柔剣道は、スポーツ少年団の指導者 軟式野球は、中学校の顧問が引き続き指導する者が多い。
活動場所	公立小中学校の体育館およびグラウンド
主な移動手段	ほとんどの生徒が自転車及び徒歩 遠方の生徒は保護者送迎が多い。
１人あたりの参加会費等（年額）	柔・剣道：24,000～36,000円 軟式野球：60,000円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●市は会場の安全管理および会計事務の補助業務を行う。

●代表責任者

役割：指導および大会引率と生徒の出席状況の確認、保護者連絡を行う。

●主任指導者　３～６ 名

役割：日常の指導に携わる。

●運営補助者　１～３ 名

役割：会費の集金、指導者への謝金支払い、大会参加に向けての参加計画を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○クラブ管理事務局の総括コーディネーターと推進員に加え、新たに事務職員の人員を３名加え、競技団体との調整を行うとともに、クラブの会場確保や備品の調達、会計事務の支援を行った。

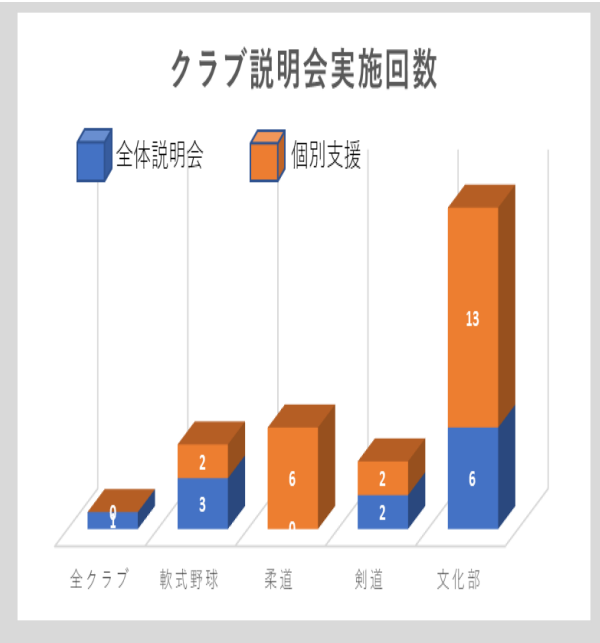
○学校の施設内を活用する場合のセキュリティおよび備品や消耗品の調達に関する課題解決に向けて取り組んだ。

取組の成果

○会計担当者を保護者が担うクラブが多く、未経験であるため、担当者に対して、説明会を行い、税務署への申請、謝金や交通費の支払いだけでなく、委託金の使用状況を確認し、様々な支援を行った。

○クラブごとに会計事務説明会を実施し、相談があったクラブには個別支援をすることで、会計事務をスムーズに行うことができるようになった。

○モデル事業だけでなく、今後立ち上げるクラブに対しても、関係団体への説明、専門部への説明を繰り返すだけでなく、リーフレットを作成し、配付することで、地域クラブに対する理解が深まってきた。



【クラブ管理事務局業務月報より】

コーディネーターの具体的な動きの実績

○地域クラブ化に向けて、関係団体への説明、中体連各種目専門部への説明会の実施、保護者会の開催などを行い、周知を図ってきた。モデル事業に対しては、会計事務担当者への支援を行うことと、活動していく中で課題を聞き取り、今後の新たなクラブの立ち上げに向けて整備を行う。

今後の課題と対応方針

○地域クラブに関わる指導者は、高齢者が多く持続可能なクラブにするためにも若い指導者の育成が急務である。

○夕刻の時間帯に指導可能な者がいないため、どうしても教員の力を借りなければならない。地域の人材発掘にも力を入れていく必要がある。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

○教職員アンケートで指導者の洗い出し。
○スポーツ協会の集まりに参加したり、各関係団体へ説明に赴いたりして指導者登録を依頼。
○市報などで指導者登録の記事を掲載。
○スマートフォンから登録できるように工夫。

人材バンクの人数

２６名

人材バンクの年齢構成

10代	0名
20代	0名
30代	5名
40代	7名
50代	9名
60代以上	15名

登録者属性

○スポーツ協会の会合で知った。
○協会や連盟の集まりの際、説明を受けた。
○市の広報紙で知った。
○クラブ管理事務局の説明で知った。

種目

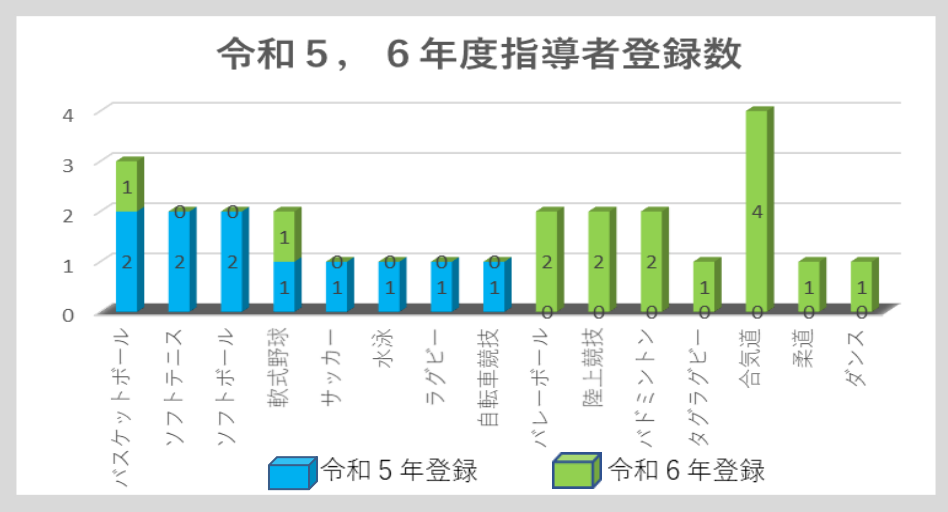
○軟式野球
○ソフトボール
○バスケットボール
○バレーボール
○バドミントン
○陸上競技
○ソフトテニス
○合気道その他５種目

資格有無

○中体連の大会に出場するためには公認資格が必要となる為、各団体で資格を有した者が少ない。
○資格のない者については、研修を受けてもらうことで指導に携わってもらうことにしている。

取組の成果

○人材バンクの指導者登録数は令和５年には11名だったが、令和６年には26名に増えた。部活動の地域移行の問題が学校関係者しか知らないため市民には理解されていなかったものが、次第に周知されることによって少しずつではあるが増やすことができた。
○人材バンク以外からも個別に指導者を発掘し指導者になってもらった方も多い。登録者以外に柔道６人、剣道13人、軟式野球10人いる。
○部活動の地域移行を予定している他の種目においても、指導者を51名確保できた。まだまだ十分とはいえないので引き続き指導者を発掘していきたい。



【防府市指導者登録一覧より】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

○学校部活動の地域移行と指導者の関わりについて
○事例を踏まえた新たな地域クラブ活動の在り方やクラブの運営について
○スポーツ指導者が身につけておくべき倫理と法知識
○緊急時の対応（救急救命）について
○山口県の学校部活動の方針及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する方針に則った活動と中学生の心と身体について
○中学生の地域スポーツ・文化芸術活動における事故防止と危機管理の対応について
○中学生年代の積極性を引き出す関わり方
○文化芸術活動の指導の在り方について　～心をつなぎ合う支援～
○著作権について

指導者研修の参加実績

・開催日：　令和６年１１月３０日および１２月１日
・開催回数：２日間
・参加人数：スポーツ活動　１４ 人　文化活動１６人
○指導に携わる方で、中学生の指導経験のない方には受講を義務づけている。教員として部活動指導経験の豊富な方や公認資格を有する者は免除している。部活動にはない新たなクラブの指導者の参加が増えたことは喜ばしいことである。

受講者の声

○参加者の多くが、新潟県村上市ＮＰＯ法人希楽々理事長の話を聞き感銘を受けたと答えている。地域クラブというものが、どういうものなのかがイメージできたという声を聴いた。
○学校と地域が融合しなければならないという話を聞いたが、教員が関わらないというのはどういうことかと疑問をもつ方もいた。
○持続可能なクラブにするためには、指導者や生徒が通いやすい場所を拠点として活動することができると良い。一般の人は学校の敷居が高く、公民館などの市の施設を利用できると良いという感想をもった。
○周りの人を巻き込むことの重要性が理解できた。目標をもたせてもらえる良い研修で会った。
○救急救命などの安全に関する研修は何度受けても良いと思った。

今後の課題と対応方針

○中体連の大会に出場するためには、ほとんどの種目が公認資格を有した者がいなければ大会に参加ができない。そのため公認資格を有する者がいない種目はクラブを立ち上げることに消極的である。移行期間においては、中体連も柔軟な対応をしてもらいたい。
○指導者が公認資格を取得する際に、自費で講習を受けることはほとんどない。指導者を増やすためには、受講費の補助を支援していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

○これまで活用していた学校施設を無償で提供し、利用時間も延長した。
○夜間利用していた団体と交渉し、活動場所を確保した。
○活動に必要な設備や備品を有効利用できるように整備した。
○教員以外の指導者が立ち入る場合の、出入り口と施錠の管理などの責任を明確にし、セキュリティの課題解決に尽力した。
○県立高校や公民館を活用する団体に中学生の受け入れを依頼した。

取組の成果

○これまで部活動で活動していた時間帯だけでは地域の指導者が集まらず、21時までの夜間の時間帯にも地域クラブが活用できるようにした。その際、利用していた団体に曜日や時間を変更するなどの調整を行った。
○夜間に活動するクラブがあれば、屋外において照明が必要となる。照明を利用できる時間帯を調整するなど利用できる環境整備を行った。
○活動に必要なボールなどの備品・消耗品はこれまで部活動で利用していた物を引き続き利用できるように学校や父母会などと調整を行った。
○県立高校のグラウンド利用や公民館活動の団体に中学生の受け入れを了承してくれる公民館と団体が増えた。

1 夜間に活動する地域クラブ数

種　　目	地域クラブ数
剣　　道	3
卓　　球	3
バドミントン	3
バレーボール	3
バスケットボール	2
サッカー	1
ソフトテニス	1

2 公民館受け入れ団体数

令和５年度
２公民館　１４団体

⇩

令和６年度
６公民館　１９団体

【地域クラブ認定申請手続き一覧より】

今後の課題と対応方針

○令和７年８月にはスポーツの部活動が、11月には文化部がクラブ化になる。更に認定団体が増えれば、中学校だけでの活動場所の確保が難しい状況である。曜日や時間帯を調整することで、地域クラブ数を増やしたい。
○教職員が部活動から離れることで、学校施設の管理が難しくなる。門扉、校舎や体育館の施錠、グラウンド照明の管理、道具の保管など施設管理者との調整が必要になる。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ク：その他の取組　平日の移行

取組事項

○改革推進期間後を見据えた取組を推進する観点から、休日だけではなく平日も含めた地域スポーツクラブ活動への移行に向けた取組等を実施し、課題の抽出や課題解決策の検討等を行った。

○具体的には、休日に加えて、平日の学校運動部活動（全ての学校の柔道、剣道、軟式野球）を地域クラブ活動にモデル事業として実施。

取組の成果

○柔道、剣道、軟式野球について、全ての中学校の部活動を休日に加えて、平日も含めて、地域クラブ活動として実施。

○休日、平日ともに同一の指導者による計画的・継続的な指導をすることができた。

○指導者が変わらないことで、生徒のストレスの軽減や、モチベーションの維持など、オン・オフの切り替えにもつながった。

種目	クラブ名	平日	休日	会費	指導者数
柔道	防府柔道クラブ	4日	1日	3,000	9人
剣道	松崎少年剣友会	3日	1日	3,000	6人
剣道	協和少年剣友会	3日	1日	3,000	4人
剣道	右田少年剣友会	3日	1日	2,000	3人
軟式野球	防府クラブ	4日	1日	5,000	3人
軟式野球	防府ジャイアンツ	4日	1日	5,000	3人
軟式野球	国府クラブ	3日	1日	5,000	4人

指導者の属性や配置の工夫

・指導者の属性

○頂点をめざしたい指導者と楽しく基本を指導したい指導者とがいる。

・配置の工夫

○可能であれば、全国大会出場をめざすチャレンジクラブと、楽しく活動するエンジョイクラブを立ち上げることで、生徒の能力や希望に応えられるようにしたことと、３エリアで分けているが、どのクラブでも生徒が選択できるようにした。

○地域間の移動を可能にするためバスによる移動を考えている。

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

○市内を東部、中部、西部の３エリアに分けて、各エリアに地域クラブを立ち上げると、小学校で活動していたメンバーが、分かれる現象が起きた。小学校と中学校で一貫指導できるように、小学校区で分類する種目を作った。

○スポーツ少年団の指導者が、地域クラブでも指導する体制ができた種目もある。（柔道、剣道、軟式野球）そのお陰で、小学校で指導していた方が引き続き指導できる体制が整った。

今後の課題と対応方針

○中体連の大会には、学校ごとに出場枠が設けられていたが、地域クラブ化することで、大幅に出場枠が減少する結果を産むため、県中体連による出場枠の見直しが必要。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

〇クラブ管理事務局に人員を増やし、クラブ立ち上げだけでなく、立ち上げたクラブの会計事務補助等クラブが自力で運営できるように支援してきた。

〇指導者登録だけでは人が集まらないため、講習会への参加を促すことで指導資格者を増やす努力をした。

〇クラブの活動する施設と活動に必要な道具の整備をすることで、指導者への負担軽減に努めた。

〇夕刻の時間帯は勤務の関係で指導できる人が、いないのが現状であり、活動時刻を夜間にするなどして、指導者の確保に努めた。その結果、夜間に活動していた団体と会場の調整をしなければならない状況が発生するなど、新たな課題が見つかった。

〇県内でいち早くクラブ化を進めてきた関係で、中体連主催大会への出場枠の減少や、公認指導者資格所有者の引率が出場条件など、大会へ出場する条件が厳しくなっている。そのため、県中体連や各専門部に条件を再考するよう交渉を行った。

●成果の評価

〇各クラブに対して会計事務の支援をしてきたが、担当者は保護者の方が多く、クラブ独自で運営していくためには引き続き行政の支援の必要性を強く感じる。

〇公認指導者資格を所有していない方に指導者になってもらうためには、講習会の受講を義務づけている。県指導者研修会は年１回の開催しかないが、多くの方が参加した。更に指導者を増やすために市独自で研修会を開催することを考えたい。

〇夜間の時間帯でしか指導できない人のために、夜間の活動場所を確保する必要が出てきた。地域クラブ優先に活用できる制度作りと利用者への協力を依頼したい。

〇出場枠の問題を訴え続けてきた結果、新たな出場枠を各種目で協議する機会が増えてきている。指導者の規制緩和は、関係団体から国へ訴えているが、厳しい状況である。

●今後に向けて

〇今後、地域クラブを立ち上げようとする気運を高めるために、以下の新たに３つの支援を行う計画を立てている。

1　地域クラブに参加する生徒への支援

・公共交通機関を利用した場合の全額補助　・マイクロバスの導入による送迎

2　新たに立ち上がる地域クラブへの支援

・必要な備品や用具類の購入を支援（ボール類、ユニフォームなど）

3　地域クラブへ参加する指導者への支援

・公認指導者資格を取得するための費用の補助

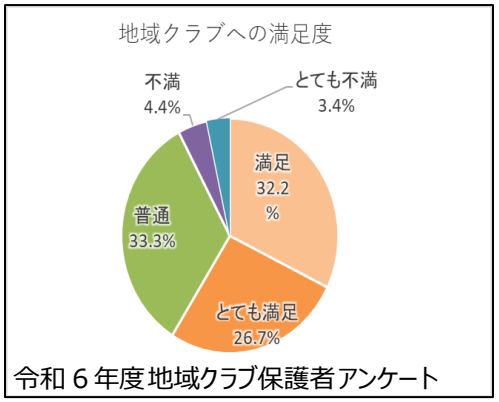
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

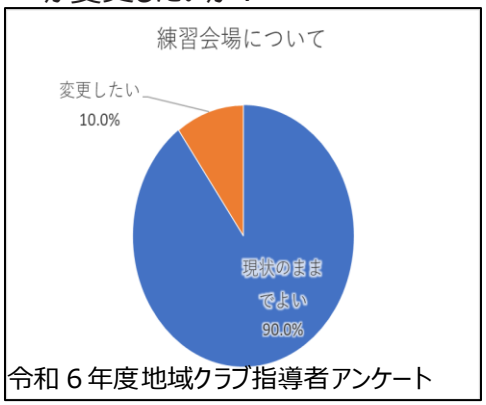
●アンケート結果

Q.あなたの所属する地域クラブに対してどの程度満足していますか？



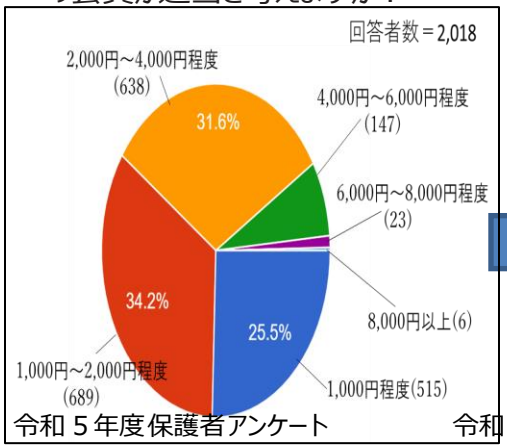
令和６年度地域クラブ保護者アンケート

Q.練習会場について現状のままで良いか変更したいか？



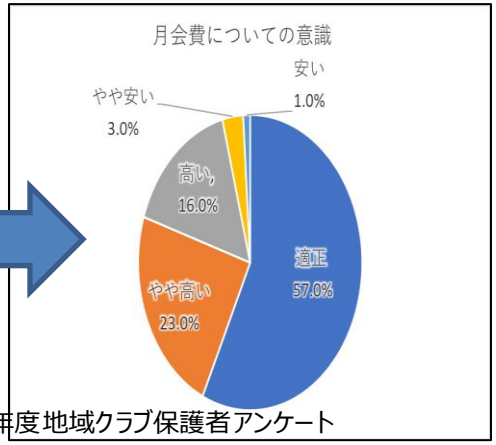
令和６年度地域クラブ指導者アンケート

Q.地域移行した場合、月々どの程度の会費が適当と考えますか？



令和５年度保護者アンケート

Q.現在の会費について、どう思いますか？



令和６年度地域クラブ保護者アンケート

●参加者の声

中学２年生

〇これまで十分に練習することができなかったが、思いっきり全力で練習ができるようになり、県大会に出場出来た。そしてキャプテンとして沢山の経験ができました。

中学１年生

〇身体的にも精神的にも強くなり、コミュニケーション能力も以前より高まった。

〇専門の先生が熱心に教えてくださる。

〇他校生徒と仲良くなれ、クラブの一員になれた気がする。

指導者

〇防府市の中学軟式野球を存続させることができた。

〇一年を通じて練習時間の確保ができる。他校の生徒と交流することで互いにないものを学び合える良い環境になった。

保護者

〇他校の生徒と仲良くなれ、レベルの高い練習や試合ができるようになった。

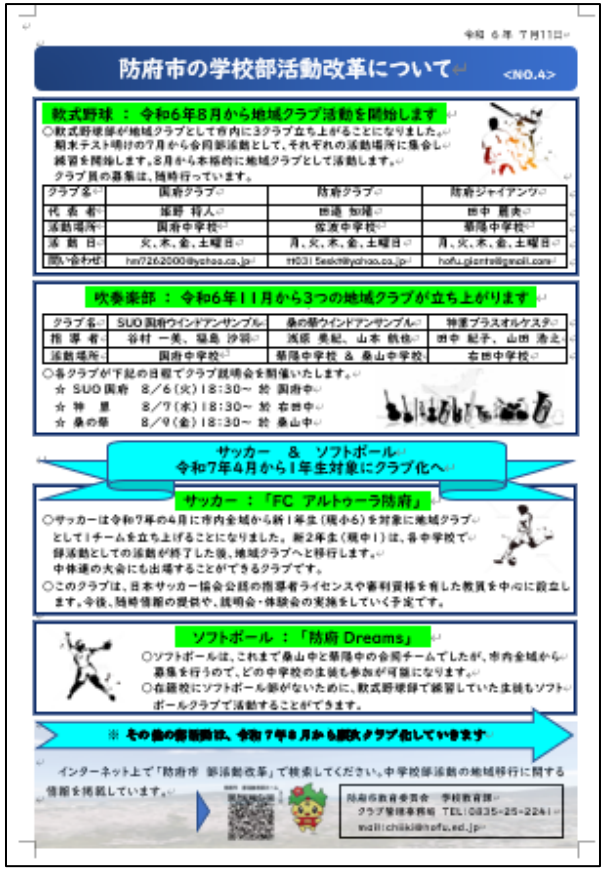
〇専門的で丁寧な指導だけでなく、生活指導もしていただけている。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

アンケート結果・広報資料

○令和６年度はモデル事業を受けた軟式野球クラブが８月に、吹奏楽クラブが11月に地域クラブとして立ち上がることになった。軟式野球は募集のお知らせ、吹奏楽はクラブ説明会の開催をリーフレットで通知した。

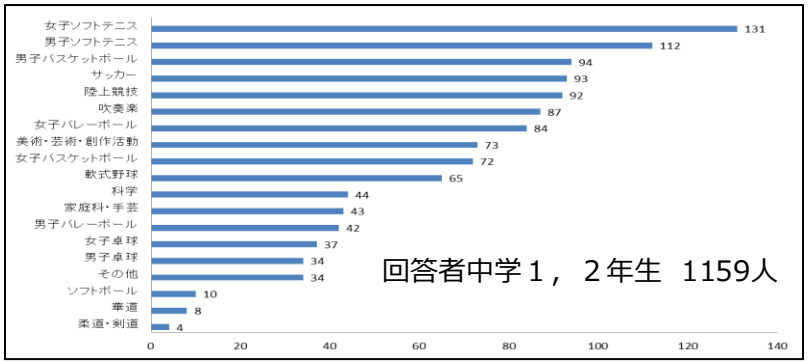


【生徒への参加啓発チラシ】

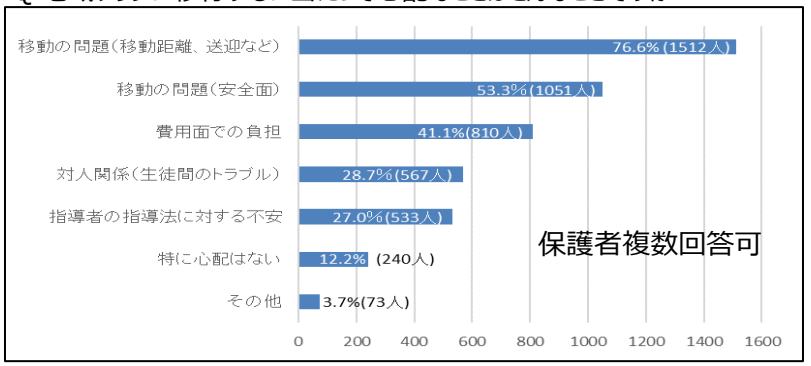
防府市部活動改革リーフレット 第４号より

○中学１，２年生と小学５，６年生に対してどんな種目を体験したいのかをたずね、立ち上げるクラブ数を決定した。保護者に対してはクラブ化になった際の不安点についてたずね、活動場所や会費の参考にした。

Q 地域クラブに移行した場合、何の種目に入りたいですか？



Q 地域クラブに移行するに当たって心配なことはどんなことですか？



【アンケート結果】

令和６年度部活動の地域移行に関するアンケート結果より

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【軟式野球クラブ：防府クラブ　キャッチボールの様子】



【剣道クラブ：松崎少年剣友会　打ち込み練習の様子】



【柔道クラブ：防府柔道クラブ　打ち込み練習の様子　】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和３年	令和４年	令和５年		令和６年	令和７年
研究指定校による実践研究開始	防府市部活動改革推進協議会の設置	クラブ管理事務局の設置 柔道・剣道の実証事業開始	各競技団体への説明 モデルクラブ選定	柔道・剣道、軟式野球、吹奏楽のモデル事業開始	地域クラブ活動の拡大

●ステークホルダー
防府市立牟礼中学校

●経過
部活動指導員の増員により、休日の部活動を地域の指導者に任せる取組を行った。

●実施にあたって生じた課題
部活動顧問と部活動指導員の指導方針の違いや連携の困難さが浮き彫りとなる。

●実施内容、工夫した点 等
教職員の働き方改革による負担軽減に取り組んだ。
保護者の負担がどの位になるのか試算した。

●ステークホルダー
柔道スポーツ少年団、剣友会

●経過
各競技団体に説明を繰り返し、柔道は市内に１クラブを、剣道は６校あった部活動を３クラブにまとめる作業を行い、実証事業を行った。

●実施にあたって生じた課題
夜間の活動となり、保護者の送迎が必要となったり、塾の時間帯と重なり、参加が難しくなったりした。

●実施内容、工夫した点 等
大会後に生徒と保護者に対して説明会を開き、クラブ化への理解と協力を呼びかけた。

●ステークホルダー
柔道・剣道クラブ、軟式野球クラブ、

●経過
柔道１団体、剣道３団体、軟式野球３団体を、地域クラブ活動のモデル事業として運用を開始。

●実施にあたって生じた課題
会場が遠い生徒の送迎の問題、安全に活動するための会場整備、活動に必要な道具の準備、道具の保管場所など学校の協力体制などが挙がってきた。

●実施内容、工夫した点 等
自立したクラブ運営のために、会計事務担当者に説明会を開き、事務処理の支援を行った。

●ステークホルダー
サッカー、バレーボール、ソフトボール、バスケットボール、ソフトテニス、卓球

●経過
それぞれの種目でクラブ化の準備作業を行う。受け入れ団体と活動場所の確保を行う。

●実施にあたって生じた課題
指導者の確保が一番の課題である。夕刻の時間帯に地域の方で指導できる方がいない。夜間の活動を含めて指導者と会場確保が厳しい状況である。

●実施内容、工夫した点 等
県主催の指導者研修会に参加することを指導者資格の条件とした。
会場を確保するために地域クラブが優先利用できる体制を整えた。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

地域クラブ化までの移行スケジュール

防府市 Hofu city

令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度

国・県の改革推進期間（休日の地域移行）

改革実行期間（平日の移行）

防府市部活動改革推進協議会（平日および休日の移行）

► 地域クラブ管理事務局の設置

地域クラブ認定

実証実験事業

モデル事業

完全地域クラブ化 & 部活動終了

実証実験内容

1　対象
　〇市内中学校運動部
　　・柔道　・剣道
2　内容
　〇地域クラブ化（休日）
　・柔道部（2校）を1チーム
　・剣道部（6校）を3チーム
　〇地域の指導者による指導及びチーム運営に係る事務等

モデル内容　1

1　対象
　市内中学校【柔道１・剣道３】
　運動部【 軟式野球　３ 】
　文化部【 吹 奏 楽　３ 】
2　内容
　〇地域クラブ化　（平日＆休日）

　〇地域の指導者による指導及びチーム運営に係る事務等
　　※ 会費の集金、指導者謝金

モデル内容　2　＋　認定

1　対象
　運動部【 軟式野球３　サッカー１　ソフトボール１
　　バレーボール３　バスケットボール３
　　卓球３　ソフトテニス２　バドミントン３】
　文化部【 吹奏楽３　科学２　美術４　家庭科２
　　華道３　図書館クラブ１ 】
2　内容
　〇地域クラブ化　（平日＆休日）
　〇地域の指導者による指導及びチーム運営に係る事務
　※ 会費の集金、謝金の支払い、大会の引率
　　税金の納入、必要経費の購入